

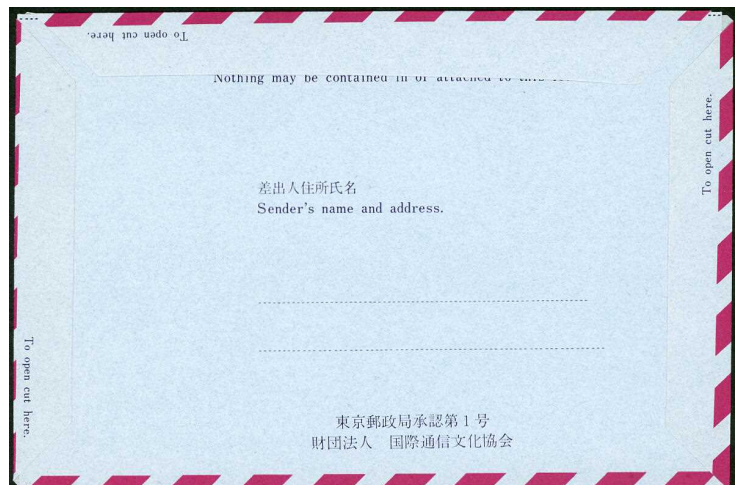
私製航空書簡 (1)

永吉 秀夫

航空書簡とは国内用「ミニレター」の国際郵便版というべきもので、1949年3月1日に初めて発行された後、現在まで販売が継続されています。現行料金は90円ですが、最近では利用が少ないようで、郵便局の窓口で常備されていないこともあるようです。スタンプショウかごしま2016では、この航空書簡の実郵便コレクションを展示しました(会報227、229号)。

航空書簡は当初私製が許されていませんでしたが、1964年4月以降は私製できるようになりました。ただし所定の手続きによって許可を得る必要があり、承認番号を印刷することが要求されました。この意味では、私製品といえども郵趣マテリアルということになり、収集の対象になるかと思えます。しかし収集家のためのカタログのようなものは(たぶん)ないので、現物を確認しながら集めていくしかありません。

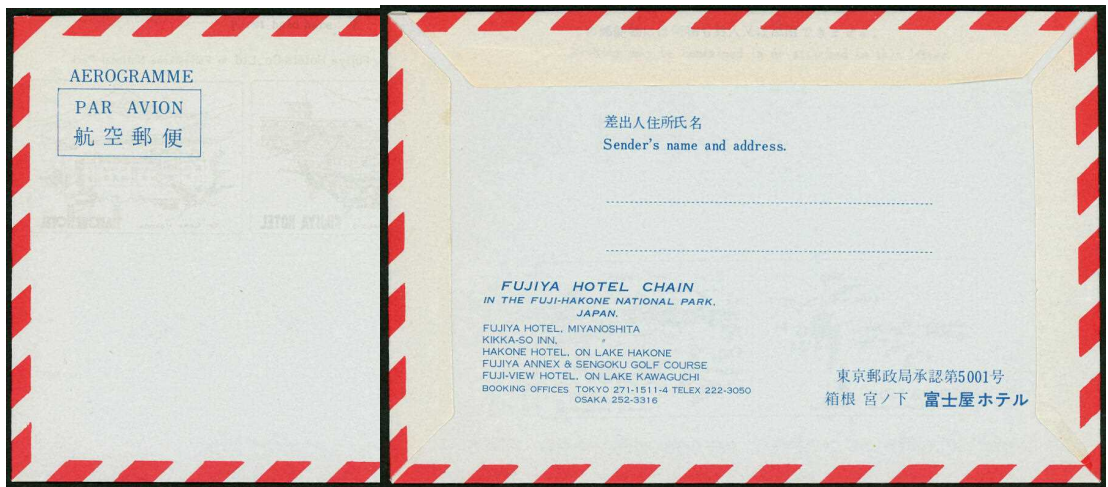
最近この私製航空書簡のロット物を入手しました。大方は各時代の官製品に準ずる様式になっていますが、対応は完全でなく、いろいろバラエティがあって楽しめます。右の品では、裏面に「東京郵政局承認第1号/財団法人国際通信文化協会」の文字が印刷されています。おそらく私製航空書簡第1号でしょう。



東京1号(国際通信文化協会)

1964年4月の私製航空書簡認可と同時に、航空書簡の折りたたみ方が変更され、それまでの観音開き3度折り1辺糊づけ型式から、3つ折り3辺糊づけ型式に変更されました(図解→ビジュアル日本切手カタログ普通切手編)。サイズも少し拡大され、標準折りたたみサイズが横148ミリ縦98ミリとなりました。上で紹介した私製航空書簡も、この規格にそって作られています。

私製航空書簡の中には、制作した会社の宣伝文などが印刷されているものがあります。次ページの品には、裏面に「富士屋ホテル」の名前とアドレスが印刷され、内側にはいろいろな関連施設のイラストが印刷されています。まあホテル備え付け封筒・便箋の航空書簡版ということですね。

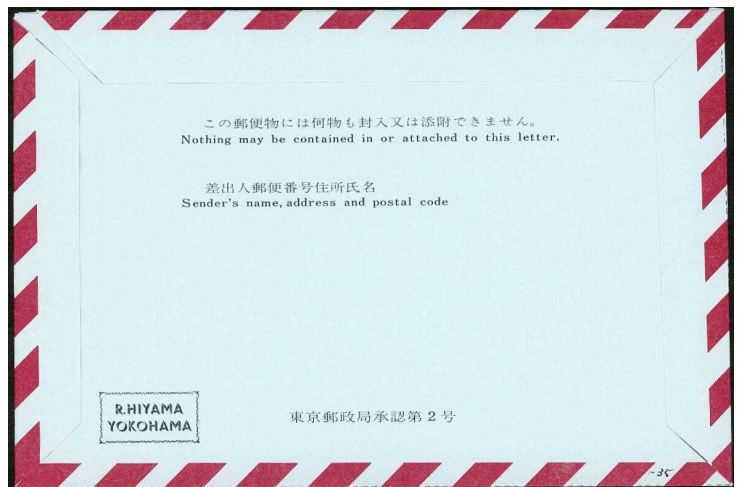


東京 5001 号(富士屋ホテル)

航空書簡の様式は1965年9月に再び変更され、1964年以前のサイズ(約140ミリ×90ミリ)に戻るとともに、折りたたみ方が縦横4つ折り2辺糊づけ型式になりました。1964年規格で発行された官製航空書簡は、1964年9月発行の「東京五輪記念」しかありません。

以降の官製航空書簡は1965年規格で発行されましたが、従来様式のものも可と

されたので、その後も旧規格で製造された私製航空書簡があります。上に掲げた「R. HIYAMA/YOKOHAMA」は、「差出人郵便番号」の文字が添えられていることからわかるように1968年以降の製造品ですが、サイズや折りたたみ方は1964年規格で製造されています。それに対し先に紹介した「富士屋ホテル」の航空書簡は、1965年規格で下のようになりかえられました。表側の文字配置にも多少変更があります。官製航空書簡は新規格で青枠になりましたが、富士屋ホテル品は赤枠のままでも新規格に変更されています。(つづく)



東京 2号 (R. HIYAMA)



東京 5001 号新型(富士屋ホテル)

